

## 平成 27 年度 第 1 回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨

日時：平成 27 年 12 月 17 日（木）13:00-15:00

場所：国立情報学研究所 19F 会議室（1901-1903 室）

議事：

### 1. 作業部会の構成について

事務局より、資料 3 に基づき、平成 27 年度の運営・連携本部の体制案（クラウド作業部会及びセキュリティ作業部会の新設、並びに、企画作業部会の休会）について説明があり、案通りの体制とすることが承認された。

### 2. SINET5 の準備状況について

漆谷委員（ネットワーク作業部会主査）から、資料 4 に基づき、SINET5 の準備状況について説明・報告があった。

- ・ SINET5 への移行に向け順調に進展している。世界に伍する情報基盤としての全国 100Gbps 化の実現は、皆様のご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げたい。

### 3. eduroam JP の移管・事業化及び認証作業部会の活動について

岡部委員（認証作業部会主査）から、資料 5-1 に基づき、eduroam JP の移管（現状では、eduroam JP の実施主体は認証作業部会であるが、継続的・安定的に提供するため、今後、NII に移管し事業化を進めること）について提案された。この提案を受け、漆谷委員（NII 学術基盤推進部長）から、資料 5-2 に基づき、eduroam JP の事業化に向けた方針（H28 年 7 月までに体制・規程等を整備、同年 10 月までにサービス提供、を目標とする）について説明があり、移管及び方針が承認された。

その後、岡部委員から、資料 5-3 に基づき、認証作業部会の活動について、担当業務を全て事業化完了した旨の報告があった。この報告を受け、喜連川本部長から、認証作業部会を今年度で閉会する旨の宣言がされた。

- ・ eduroam JP の参加機関数は、H21 年の開始以降、順調に増加している（H27 年現在、127 機関が参加）。今後、目標とされる参加機関数の達成に向けた啓蒙普及について、引き続きご指導いただくと共に、岡部主査をはじめ認証作業部会の皆様に改めて厚く御礼申し上げたい。

### 4. 大学・研究機関のためのクラウド導入・利用支援計画

合田委員（クラウド作業部会主査）から、資料 6 に基づき、大学・研究機関のためのクラウド導入・利用支援計画について説明があった。主な意見は次のとおりである。今後、クラウド作業部会を開催し、示された意見を踏まえ、具体を検討することとした。

- SINET5 での全国 100Gbps 化整備の大きな推進力として、情報基盤のクラウドへの移行があり、これを着実に支える必要がある。歴史的には昔の大型計算機センターの姿はクラウドの原型ともいえ、基盤センターはその役割を担ってきた。今後クラウド化を推進する上で、例えば情報基盤センターが中心となり NII がネットワークを担う等、トータルシステムとしての情報基盤センターと NII の役割を議論したい。
- 商用クラウド (Google や Amazon 等) のコスト削減が十分最適化されているとして、仮に情報基盤センターと比較しようにも、組織の性質 (競争原理や予算の出所等) が異なり公平な比較はできない。この点を踏まえた上で、大学等の計算資源整備に係る全体の国家投資がどう利用されているか、率直に議論するフェーズにある。
- 大学等で共用できるコンテンツやリソースは、個々の大学や研究室等の単位で調達・競争するのでなく、大学等の中で連携し、知恵を出しあい、皆で良いものを作るマインドを加速しなければならない。
- 省エネやセキュリティ高度化等のため学内サーバ集約を図った際、極端かもしれないが、補助金事業での視察で見せる物理サーバを残したいとの例があった。補助金でサーバ調達を禁止する等の制度設計がなされれば、状況は変わるだろう。
- 管理運営や教育・学習基盤でクラウド導入が伸び、研究基盤で導入が伸びないことは、各経費での国や大学のガバナンス (コスト削減圧力) の程度を反映しているのではないか。クラウド化推進には、実験・測定等のデータを集約するストレージやアーカイブの整備も有効と思われる。
- 管理運営基盤はそれほど多くのリソースを必要としない。研究基盤では多くのスパコンを利用でき、あえて高コストなクラウドを選ぶ必要がない。その様な基盤ごとの相違を理解する必要がある。次世代の TSUBAME3 はクラウドを全マシンに取り入れる予定であり、仮に全センターで同様の取組みが進めば、一層のコンソリデーションが期待できる。
- 国立大学は、第 3 期中期目標期間の予算配分で基盤経費をどう獲得し成果を出せるか、大きなプレッシャーに晒されている。大学間の連携とは別に、各大学がそれぞれに生き残るための戦略・判断が求められている状況にある。
- 高エネルギー分野では、CERN を中心にした実験で独自の GRID 網がある。研究システム用のクラウド普及は進んでいるが、日本での導入は比較的遅れている。商用クラウド利用は、季節的に CPU 資源が不足した場合に安価なところから補う例がある。
- 天文学分野では、年間ペタバイト級のデータが定常的に発生する。解析によってデータ量は 4~10 倍になるため I/O ネットであり、この大量データをどう運べるか、クラウド利用モデルはまだ見当たらない。国際協力で世界 2 カ所 (アフリカ、オーストラリア) に建設する Square Kilometre Array (SKA) 計画では、超大規模ストレージが 2020 年にかけて世界中で数拠点整備される予定である。

## 5. NII のセキュリティサービス

高倉委員（セキュリティ作業部会主査）から、資料 7 に基づき、NII のセキュリティサービスについて説明があった。今後、セキュリティ作業部会を開催し、具体を検討することとした。

## 6. 各作業部会報告

### 6.1. ネットワーク作業部会

漆谷主査から、資料 8-1 に基づき、活動報告があった。

- ・ SINET5 での新サービスについてより広く認知を高めるため、研究プロジェクト毎の集まりで説明機会を増やすなど、一層の宣伝に努める予定である。

### 6.2. 認証作業部会

岡部主査から資料 8-2 に基づき、活動報告があった。

- ・ 部会での審議を踏まえ、今回の議事 3 で審議の運びとなった。

### 6.3. セキュリティポリシー推進部会

曾根主査から資料 8-3 に基づき、活動報告があった。

- ・ サンプル規程集について、政府統一基準改訂への対応、認証基盤及び認証連携、並びに、セキュリティ事案発生時の対応体制が、主な検討課題となる。また、学生による SNS トラブルが散見され、教材作成を検討している。

## 7. その他

事務局から、資料 9-1 に基づき、学術情報基盤オープンフォーラムの活動報告があった。

- ・ SINET 及び学認・UPKI 証明書説明会での各情報基盤センターの共催・後援に対し、御礼が述べられた。H28/5 には SINET5 の開通式を予定している。

山田茂樹特任教授（陪席：国立情報学研究所）から、資料 9-2 に基づき、Global REN CEO Forum の状況について報告があった。

- ・ 2012 年に、Internet2（米国）、NORDUnet（北欧 5 ヶ国）等が発起人となり、14 地域の REN がフォーラム組織を発足させた。日本は、参加要請を受け 2015 年に初参加した。グローバル連携に向け、WG を設置し議論を行っている。

以上